

目指す姿

世界があこがれる福井

（「躍動する福井」の推進により持続的な発展を図り、「世界があこがれる福井」を実現）

グローバルに展開し、国内外で福井の存在感を向上させるとともに、
県民自身が世界に誇れる福井を実感するよう、故郷（ローカル）の価値を高めていく ⇒ グローバルとローカルの両輪で推進

県政の 運営方針



全世代リスペクト

- ・若者躍動プロジェクト
- ・高齢者グッドライフプロジェクト



徹底した県民目線

- ・知事の現場実践プロジェクト
（実践、視察、意見交換等の実施）



発信改革

- ・「届く」「伝わる」情報発信
- ・情報リーチ戦略プロジェクト

政策の 強化軸

躍動福井のファーストステップ「3つのS」～スケール・スピード・サステナビリティ～

長期ビジョンおよび実行プランを継承しながら、「3つのS」に沿って取組みを強化

① スケール Scale

世界とのつながりを成長の原動力に、
世界の中の福井へ

世界に直結する福井ブランドの確立

- ・知事によるトップセールス（大使館外交等）
- ・世界にアピールする新ブランド戦略
- ・インバウンド+販路開拓+情報発信を
一体化した戦略的海外展開 など



世界を知り、活躍する人材の育成

- ・世界を知り、福井で活躍する人材の育成
- ・国際教育の充実
- ・AI人材の育成 など



② スピード Speed

時代の変化をつかみ、
未来をさきがける福井へ

社会環境の変化に先手で動く福井へ

- ・地方発AX（AIを軸とした産業振興・
教育振興・行政改革）
- ・新経済プランの策定・推進（産業クラスター等）
- ・農林水産業、建設業などのスマート化
- ・GXの推進 など



現場の機動力を活かす「オールふくい」

- ・市町協働、官民共創の推進
- ・部局横断の「掛け算プロジェクト」
- ・情報発信強化（効果的なSNSの活用、
プッシュ型） など



③ サステナビリティ Sustainability

未来への投資が新しい価値を生み、
次世代へつなぐ福井

人口減少を見据え、社会をリ・デザイン

- ・行政サービスの効率化・最適化（県市町共同DX）
- ・安心安全な暮らしを支える基盤の強化
（防災、インフラ、交通、医療・福祉、地域コミュニティ等）
- ・福井のさらなる魅力向上（福井アリーナ整備、
若狭湾プレミアムリゾート構想等）
- ・嶺南地域の振興（エネルギーを活用した地域の活性化、
敦賀以西のまちづくり等） など



SWG（人と社会の持続的な幸福）の実現

※サステナブル・ウェルビーイング・ゴールズ

- ・子育て支援・教育の充実（ふく育県の推進、教育改革による地域みらい人材の育成等）
- ・障がい者・高齢者支援（複雑化する福祉ニーズへの対応、生活支援サービスの充実）
- ・若者躍動（定着・挑戦）、ミドル・シニアの応援（活躍の場創出、世代間交流等）
- ・関係人口の創出・拡大（ふるさと住民登録制度等） など



持続可能な福祉提供体制へのアップデート ～地域共生社会の実現に向けて～

人口構造の変化や人材不足が進む中、福祉提供体制そのものをアップデートし、障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる持続可能な体制をつくります。

1. 現状と課題

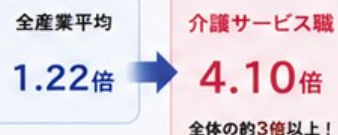
① 福祉ニーズの拡大

障がい福祉サービスは、この10年で大きく拡大



② 支え手の確保が年々厳しく

有効求人倍率の比較 (2025年)



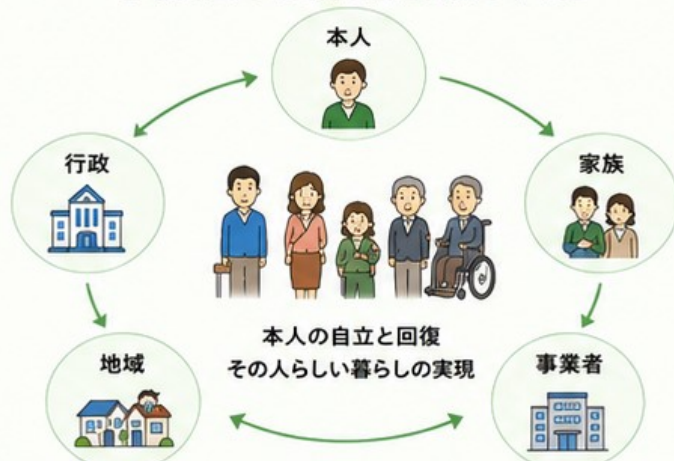
求職者1人に対して
求人が4件以上

構造的な人手不足が続く

人手不足は構造的課題であり、福祉提供体制そのもののアップデートが必要です。

2. これからの福祉提供体制の将来像

行政が「全部支える」から、本人の力を引き出し、
地域全体で支え合う仕組みへ
地域共生の考え方を福祉政策の中心に



重層的に連携・支え合う体制

- 行政サービスへの過度な依存を避ける
- 本人の力を引き出し、社会参加を促進する
- 地域の中で、ともに支え合う関係づくり

3. 体制アップデートのポイント



予防・早期支援の充実

困りごとの早期発見・早期対応で、
重度化や長期化を防ぐ。



地域生活への移行・定着支援の強化

住まい・相談・生活支援を切れ目なく提供し、
地域での暮らしを支える。



多様な主体の参画と連携

行政・事業者・地域・当事者が役割を分担し、
協働で課題を解決する。



質の高いサービスの確保と生産性向上

人材確保・育成、ICT活用などにより、
持続可能で質の高いサービスを提供する。

危機が深刻化してから対応するのではなく、
今のうちから次の体制を構想していくことが重要です。

4. 具体的なイメージ(精神障がいの場合の一例)

～段階的に地域へ戻り、その人らしく暮らせる連続した支援の仕組み～



切れ目のない支援で、再発予防と安心した地域生活を支える

目指す姿

- 障がいのある方が、自らの力で生活し、社会とつながる
- 家族も安心して、長く支えられる
- 地域全体で支え合い、誰もが尊重される社会をつくる



持続可能な福祉の実現へ



福祉は、障がいのある方やそのご家族が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための土台です。

地域共生の視点で、持続可能な福祉提供体制をともにつくっていきましょう。

「ふくい衛星運用ネットワーク構築 (FUSION) プロジェクト」

・県内企業で衛星製造から運用まで
一気通貫の体制を構築



開発② 運用技術習得衛星

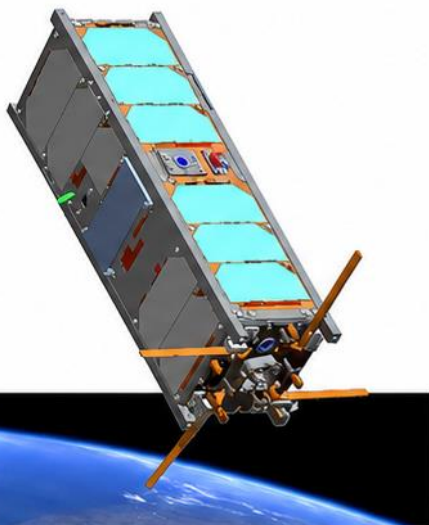
SEIREN

国立大学法人
福井大学

福井テレビ

Team
FUKUI

ArkEdge
Space



FUSION-1 WANCam (広域動画カメラ)
2025/07/30 @南アフリカ

X @FUSIONpFUSION1

開発① 運用技術習得ネットワーク

ArkEdge
Space

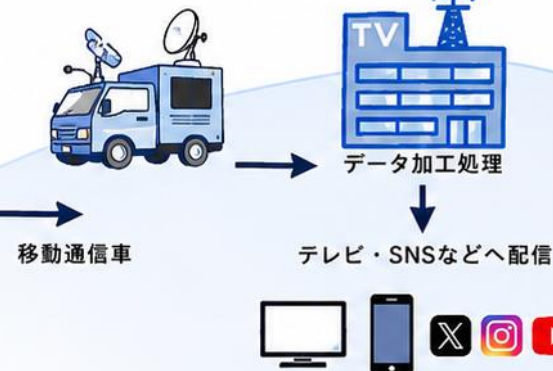
福井テレビ



衛星運用データ取得

福井工業大学
Fukui University of Technology

SEIREN



事業化による福井の宇宙産業領域の拡大

事業化① 200kg級衛星量産が可能な製造拠点への発展

小型衛星量産



先進研究開発
人材育成

国立大学法人
福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI



サプライチェーン



さらに多くの参加企業が必要です！

事業化② 衛星データ利活用へのビジネス領域拡大

衛星データ利活用



福井テレビ



さらに多くの実利用を拡大します！

事業化③ 次の10年へ

2015年～：これまでの10年

人工衛星ビジネス領域のバリューチェーンを全て経験し、事業拡大中



事業化①
小型人工衛星開発・製造・運用

事業化②
衛星データ利活用

2026年～：10年後のその先へ

事業化③

ふくいの技術が新たな宇宙のビジネス領域を加速